

令和7年度 白川郷学園研究構想

【学園の教育目標】

ひとりだち ～ 挑戦 創造 貢献 ～

【学園の児童生徒の実態】

- 素直で明るく、人のために誠実に働くことができる。
- ふるさと白川郷の自然や暮らしに興味をもち、意欲的に活動に取り組むことができる。
- 村民学の学習内容を系統的にアップデートすることで、白川村の将来の創り手となる子どもたちを育てられるようにする。
- ・基礎的・基本的な学力をさらに確実に定着できるようにする。
- ・目標に向かって失敗を恐れず挑戦し、最後までやりぬく力を伸ばしたい。
- 「失敗してもいいんだ」という校風を子どもと教師が一体となってつくる必要がある。そのために、学校生活の多くの時間を占める授業の中で、自己選択や自己決定、試行錯誤を繰り返し、学びの達成感や成就感を味わうことができるようにする。
- ・現状に満足せず、新たなものや新しい価値を生み出す創造力を伸ばしたい。
- 子どもたちが教科と教科、教科と村民学のつながりを実感し、探究的な見方・考え方を働かせることができるようにする必要がある。
- ・自分や集団を高めようと自分から願いをもって動く力を伸ばしたい。
- 問題意識をもち、相手意識や困り感に目を向ける活動を充実させる必要がある。

【令和7年度学校経営方針と重点】

<目指す学園像>

ワクワク登校し、失敗も許される中で生き生き活動し、教職員も子どもたちも未来に向けて成長し合える学園

<「学びづくり」に関わる指導の重点>

- ・自己調整しながら基礎的・基本的な内容を確実に定着できる学び
- ・仲間と協働し、新たな価値や納得解を創造する探究的な学び
- ・白川村の将来の創り手を育てる村民学のアップデート

【育成を目指す資質・能力】

志を高くもって失敗を恐れず
挑戦し、最後までやり抜く力

互いのよさや違いを認め合いながら
新たな価値を創り出す力

自分も他人も幸せになることを
考え、行動できる力

【研究主題】 新たな価値を創造する子の育成

「新たな価値の創造」とは、自分の願いの実現や社会の課題や困り感の解決について考え、多様な他者と協働しながら粘り強く取り組み、自他にとって価値あるものとして広げていくことである。

【研究仮説】

- 教科と村民学の関連、義務教育学校9年間の系統性を踏まえて指導すれば、子どもたちは、新たな価値を創造し、よりよい未来を切り拓く力を身に付け、「ひとりだち」することができる。
- 子どもたちが「できるようになりたい」、「なぜ」、「解決したい」という問題意識をもち、目標や課題、学び方を自ら選択・決定する学習環境を構成すれば、仲間と協働しながら探究的に学び合うことができる。
- 自分の学びを振り返ることができる活動を工夫して継続的に行えば、子どもたちが自己の変容を自覚し、次の学びへとつなげていくことができる。

【研究内容1】 単元・題材について

縦のつながり（9年間の系統性）と横のつながり（教科間、教科と村民学の関連）を意図した探究的な単元・題材の構想

【研究内容2】 学習活動について

- （1）問題意識をもち、自己選択・自己決定して取り組むことができる学習環境の在り方
- （2）自らの変容や高まりの自覚を促し、次の学びに生かす終末の在り方